

(仮 訳)

## プレス・リリース

2009年5月20日  
バーゼル銀行監督委員会

### バーゼル銀行監督委員会により公表された健全なストレス・テストの諸原則

バーゼル銀行監督委員会(以下「バーゼル委」という。)は本日、「健全なストレス・テスト実務及びその監督のための諸原則」を公表した。本文書は、銀行のストレス・テスト・プログラムの健全なガバナンス、設計及び実施のための包括的な諸原則を示すものである。これらの諸原則は、今般の金融危機により強調された銀行のストレス・テストの弱点に対処するものとなっている。

ストレス・テストは、銀行の内部リスク管理及び資本計画の一部として活用される重要な手段である。また、ストレス・テストは、監督当局が脆弱性を特定し、銀行の自己資本の充実度を評価することを助ける、監督上の評価プロセスの重要な要素である。したがって、これらの諸原則は、銀行のストレス・テスト実務の評価における監督当局の役割及び責任に対する期待を示している。

バーゼル委の議長を務めるウェリンク・オランダ中央銀行総裁は、「今般の危機は、リスク管理及び資本計画に不可欠な手段としてのストレス・テストの重要性を強調した」と述べた。ウェリンク氏はまた、「ストレス・テスト・プログラムは、銀行のガバナンスの枠組みに全面的に取り入れられるべきであり、バーゼル委はこれらの諸原則の実施を確保するための検証を行う」と述べた。

バーゼル委リスク管理モデル化部会の議長を務めるクノット・オランダ中央銀行監督政策局長は、「ストレス・テストは、銀行のコーポレート・ガバナンスのみならず、個々の銀行及び金融システムの強靭性を強化する上で重要な役割を果たす」と述べた。クノット氏は、「バーゼル委のこれらの諸原則は、銀行のストレス・テスト実務及びそれらの監督上の評価の深化及び強化を図る長期的な目的のために作成された」と説明した。

これらの諸原則の作成に際し、バーゼル委は、今般の金融危機の前後における業界のストレス・テスト実務を調査した。2009年1月に、バーゼル委は本文書の市中協議文書を公表している。市中協議を通じて受領したコメントは、本文書の最終版を作成するに当たり参考にされた。